
開講科目名：税務会計研究（A）（2単位）

開設年次：1年

開設学部：会計学研究科博士前期課程会計学専攻

担当者：井藤 哉

《授業の概要》

【授業の概要】

本講義では、理論と実務の両面から、税務会計の目的である課税の基準となる課税所得の計算や、課税価額の評価を目的とする会計を研究する。理論の面では、企業会計と課税所得の計算との差異を中心に考察する。実務の面では、講義の中で仕訳例、計算問題を取り上げるだけでなく、税制改正等、時事問題を適宜に紹介する予定である。理論と実務の両面から税務会計を理解することにより、企業の活動やその他の事象が企業の支払う税額に及ぼす影響を研究する。

税務会計研究（A）では、総論と収益・負債・純資産の部を取り上げるが、税額計算と費用・資産の部を取り上げる税務会計研究（B）との関連性が深いため、（A）（B）通年での受講が望ましい。

主に講義形式で行うが、必要に応じて各自からの報告などを行う予定である。

【授業の内容】

1. 制度会計における税務会計
2. 税務会計の概要
3. 税務会計学
4. 課税所得の計算構造
5. 消費税の会計
6. 販売収益
7. 役務収益・請負収益
8. 譲渡収益・受贈益・債務免除益
9. 受取配当等
10. 受取利息・使用料・リース料・その他の収益
11. 引当金
12. 準備金
13. 資本金等の額
14. 企業集団税制
15. 同族会社税務

上記のテーマには、若干の変更があり得る。

《テキスト》

講義では、資料等を配布する予定である。

《参考書》

講義の中で紹介する。